

2008年 9月 5日

北海道開発局長

鈴木 英一 様

下川自然を守る会会長 千葉 永二
サンルダム建設を考える集い代表 渋谷 静男
名寄サンルダムを考える会代表 竹内 和郎
サンル川を守る会代表 橋本 泰子
ネットワーク旭川地球村代表 山城 えり子
北海道の森と川を語る会代表 小野 有五
大雪と石狩の自然を守る会代表 寺島 一男
旭川・森と川ネット21代表 平田 一三
NPO法人 渚滑川とトラウトを考える会 理事長 扇谷 勝
(社)北海道自然保護協会会長 佐藤 謙

北海道開発局によるサンルダム本体工事予算の来年度概算計上 に対する抗議と要望書・質問書

魚類専門委員会は、天塩川流域委員会が「魚道などの対策に懸念をもつ意見があるため専門家の意見を聞く」としたことから設置されたものです。また天塩川流域委員会意見では「現状の遡上、降下などの河川環境に負荷を与えずに、事前の段階から必要に応じて試験を行い、その対策の効果を確認しながら、サクラマス等の生息環境の推移を継続的にモニタリングして、その結果に基づきさらに必要な対策を講ずることができる体制を整備して、取り組むべきである。」と述べています。このような役割を担って魚類専門家会議がサクラマスその他の魚類の保全について審議しているさなかに、さらにまた、新たにコガタカワシンジュガイ保全策を検討しなければならないことが明らかになったばかりという状況のなかで、開発局がサンルダム本体建設を実質的にスタートさせる予算要求を行ったことは、魚類専門家会議を無視した暴挙としか思われず、とうてい容認できるものではありません。北海道開発局が、魚類専門家会議すら無視してサンルダム本体工事を強行しようとしていることに強く抗議し、現時点での本体工事着工予算計上の撤回を求めます。

私たちは、天塩川河川整備計画が策定される過程で、北海道開発局に治水、利水およびサクラマスの保全に関する疑問に対する回答を求めてきましたが、十分な回答をいただく

ことができませんでした。また私たちと開発局との話し合いを要望してきましたが、サンルダム推進の団体とは話し合いを持ちながら、私たちとの話し合いについて応じることはありませんでした。これは民主主義のもとでの平等の原則にもとることであり、改めて強く抗議します。そのような不公平な対応を続けられる根拠を明らかにすることを要求いたします。

天塩川流域委員会の論議でも治水やサクラマス保全についての疑問が残されたままでした。その後、流域委員会意見を受けて設置された魚類専門家会議でも、私たちからの質問にはほとんど答えられておりません。私たちは上記の要望書に関連し、とくに以下の3点について質問させていただきますので、ご回答をお願いいたします。

ご回答は、9月25日までに、北海道自然保護協会（〒060-0003 札幌市中央区北3条西11丁目、加森ビル6F、Tel&FAX：011-251-5465）宛に、文書と資料によっていただけますよう、宜しくお願いします。

1. 魚類専門家会議によるサクラマス等の保全策の検討が始まったばかりの段階で、サンルダム本体工事着工の予算を計上しようというのは、魚類専門家会議の役割を無視しているとしか考えられませんが、このことについてのお考えをお示してください。
2. 今回の魚道試験の期間・方法・評価方法を明記した全体計画書を示してください。
3. 私たちは、今までのダムでサクラマスが保全された例はないと認識し、したがってサンルダムについてもサクラマス保全は困難だと考えています。開発局がサクラマス保全に成功したと考えている事例がありましたら、具体的なデータでお示してください。
4. 環境省レッドリストにおいて絶滅危惧Ⅰ類（CR＋EN）と高く評価されているコガタカワシンジュガいの保全策が示されていないなかで魚道試験を行おうとし、さらに本体工事着工予算を計上するのは、前述した天塩川流域委員会意見にも反することであり、到底、許されない行為と考えますが、それを妥当とされる根拠をお示してください。

以上